

司書合格体験記

文学部国文学科 有馬良一

私はこのたび、国立大学法人神戸大学の図書館に内定をいただきました。

まず国立大学法人等職員採用試験（図書）の試験方法の流れと私が感じたことに関して述べていきたいと思います。同試験はまず一次試験があり、教養科目のマークシート方式の試験が行われます。一次試験合格者は募集の出された大学への機関訪問を行います。その後、二次試験として図書区分の専門試験ならびに各大学での面接が行われます。

専門試験の内容は、近畿地区に関してはHPに過去10年分の問題が掲載されています。出題内容は過去問と同じような感じを受けたので解いておくのと参考になるでしょう。

面接について、私が面接を受けた大阪大学と神戸大学はどちらも1対5程度の個人面接で、時間は20分程度、ESの内容に則した質問が主になされました。私は地元が他地方ということもあり「なぜ近畿なのか」という質問は両大学で受けました。また「なぜ大学の司書を目指すのか」「なぜうちの大学なのか」ということも当然聞かれました。そのほか、PCの操作の能否、外国語の能力についても必ず質問がありました。自分の学科や専攻に関して、そして同志社にラーニングcommonsが設置されたばかりということもあり、アクティブラーニングに関する質問もされました。受験する大学のこと、自己分析のほか大学の教育全般について意識して学んでおくことが必要でしょう。

また教養試験に関して、図書館への正規雇用を目指すうえで公務員試験の対策はおそらく避けて通ることのできないものでしょう。私が公務員試験対策をはじめたのは3回生の11月から、スパートをかけたのは国家公務員試験後からと少し出遅れた感はありません。しかし、1日あたりの進捗を決め、学習を進めていくうちに次第に解き方や理論がわかるようになってきました。このことから私は、数をこなすことが公務員試験では必要であると思います。

2013年からは友人の紹介で図書館学系の勉強会にも参加し、図書館情報学に関する勉強も本格的に開始しました。現在この勉強会は図書館情報学研究会として再編されています。ここで友人たちと楽しみつつ図書館情報学について学べたこと、および先生方のインフォーマルなディスカッションなどからより広い知識を得られました。

楽しく興味を持って学ぶことができれば、必ず自分の身になる学習ができると思います。私もまだ採用されているわけではありませんが、皆さんの健闘を祈ります。

文学部国文学科 西川奈緒

2013年度山梨県司書職の試験に合格しましたので、その経緯を書かせていただきます。

司書課程説明会のたび、司書は狭き門であるというお話を聞いていました。司書となるにあたっては、求人が少ないこと、倍率が高いことに加えて、図書館学の知識だけでなく公務員教養試験を突破しなければならないなどの壁があります。私は図書館に懂れて司書課程の講義を受けてはいましたが、図書館のことに特に詳しいわけでもありませんでしたし、ずっと数学が苦手で公務員試験を突破する自信もありませんでした。ですから、3回生になるまで司書試験を受験しようとは考えていませんでした。

3回生になり卒業後のことを考え始めたころ、友人に誘われ、学内の図書館勉強会に参加しました。参加当初は、本格的に司書を目指そうとは考えていませんでした。しかし、そこに集まった方々と図書館について勉強し語り合い、図書館の仕事におけるやりがいと課題を知る中で、司書になりたいという気持ちが芽生えました。

図書館学の勉強に加え、教養試験の勉強を始めたのは3回生の10月頃でした。公務員講座に通うより安価であった通信教材を用いての勉強でした。図書館学の勉強は勉強会の仲間がいましたが、教養試験の勉強は孤独な戦いであり苦手な数学は特に辛く感じました。勉強に関して大した手ごたえも得られず、不安を抱えたまま3回生を修了しました。

私にとって転換点は、3回生の春休みに、原田隆史先生にお声を掛けていただき司書課程資料室のお掃除に参加したことです。お掃除に集まったのはほとんどが勉強会の参加者でした。このお掃除人員や勉強会のメンバーをコアにして、学生主体の図書館情報学研究会 DUALIS が結成しました。

DUALIS 結成によって、図書館に興味を持つ学生のつながりが生まれ、私の試験勉強も孤独ではなくなりました。辛かった教養の試験勉強も、仲間と悩むと楽しく取り組むことができました。また、図書館関係の情報を迅速に共有することができたことや、DUALIS の活動を通して原田先生、佐藤翔先生、岡部晋典先生や、多くの図書館関係の方々と交流する機会が得られたことは何よりも代え難い経験であると思います。

4回生の5月に国立国会図書館と、関東地区の国立大学法人の試験を、6月に大阪府の試験を受けましたが、いずれも1次試験で不合格でした。不合格通知を受け取り落ち込みましたが、DUALIS の仲間の支えがあったとともに、その試験問題をみんなで取り組むことが次の試験への意欲となりました。6月末山梨県を、7月初めに富山県朝日町の試験を受け、どちらも1次試験を合格しました。8月中は、試験のため京都から山梨と富山に通う日々でした。残念ながら朝日町は不合格となりましたが、山梨県は二次、三次試験を合格し、9月に内定を頂きました。

受験期間中は本当に司書になれるのだろうかずっと不安でしたが、図書館学・教養ともに仲間とこつこつ勉強を続けることで無事合格することができました。狭き門と思って物怖じするのは誰しも同じことと思いますが、モチベーションを保ちながら地道に知識を蓄えることが何よりの突破口だと思います。

以上が私の合格までの経緯です。司書を目指す方の参考のひとつになれば大変嬉しく思います。